



IEEE Tokyo Section Life Members Affinity Group

LMAG Tokyo (東京支部終身会員会) は 2010 年 10 月 8 日の発足から 3 年半が経過し、その活動内容も東京支部や会員の皆様からのご協力によって、次第に確かな豊かなものになって参りました。本号では、2014 年総会の報告と、Student Branch (Student)、Young Professionals (YPs)、Women in Engineering (WIE) との四者交流会の様相を、お届けいたします。

1. LMAG 総会での多田邦雄 Chair 挨拶

東京支部 Life Members Affinity Group (LMAG Tokyo) は、本年 1 月 1 日付けで 49 名の新会員 (65 歳以上で、昨年中に年齢と IEEE 会員年数の和が 100 以上となられた方々) をお迎えし、合計会員数が 500 名に達しました。まことに喜ばしい限りです。国内の合計 760 名余の life member (終身会員) のうち、約 3 分の 2 の方々が東京支部に所属しておられ、またアジア・パシフィック地域 (Region 10) の life member 1,350 名余の約 37% が東京支部に属しておられるということになります。全世界で見ても LMAG Tokyo の会員数は全 80 余の LMAG 中の第 12 位であり、米国以外の国にある LMAG では最大のものであります。

このような巨大な人材の宝庫を擁する LMAG Tokyo の活動をそれに見合うように充実させたいと、三役一同念じております。会員各位のご意見、ご批評、ご提案と、奮ってのご参加を切望しております。なお、本ニュースレターへのご投稿も大歓迎です。ご意見の発表や交換、歴史的事実の発掘・研究などへの媒体としてどうぞご利用下さい。

2. 2014 年 LMAG 総会開催報告

2014 年東京支部 LMAG の総会は、3 月 14 日 (金) 14 時 - 14 時 30 分、機械振興会館 6 階会議室で開催されました。出席者は 28 名でした。多田 Chair の上記挨拶の後、2013 年の活動報告が三木哲也 Secretary から行われました。その中で、4 回の講演会が東京支部 TPC (Technical Program Committee) と共催で行われたこと、News Letter を 3 回発行したことなどが紹介されました。次に、2014 年の活動計画が持田侑宏 Vice Chair から提案され、従来に引き続いて TPC、Student Branch、Young Professionals (旧称 GOLD)、WIE

などと連携した講演会や交流会を開催すること、見学会、懇親会、さらには国内外他支部 LMAG との交流や連携について検討を始めることも述べられ、承認されました。



左から、三木 Secretary、多田 Chair、持田 Vice Chair

総会の後、東京支部 TPC と共催で講演会が開かれ、“The 2013 MGA Achievement Award” と “2013 R10 Outstanding Volunteer Award” を受賞された三菱電機 (株) 社友 大野榮一氏より、「IEEE Milestone 活動と日本の技術の世界への発信」と題し、IEEE の History 活動や、Milestone の概要と歴史、日本からの受賞は 18 件であることなどについて、詳しい講演を伺いました。

3. LMAG/Student/YPs/WIE 交流会開催

IEEE 東京支部傘下の LMAG Tokyo、Student Branch、Young Professionals (旧称 GOLD) Affinity Group、ならびに IEEE Japan Council 傘下の WIE (Women in Engineering) Affinity Group の四者の合同で、世代間を繋ぐ交流会が開催されました。参加者数は 36 名でした。

- ・日時: 3 月 15 日 (土) 15 時 - 19 時
- ・場所: 東京理科大学葛飾キャンパス
- ・イベント概要

1. 開会挨拶

2. 講演「半導体集積回路研究開発の黎明期
—半世紀前の日本の貢献—」
多田邦雄 (LMAG Tokyo Chair)
3. LMAG 会員等による自己紹介・経験談・伝えたい話、および全体ディスカッション
4. 懇親会

東京支部 Student Activities Committee 眞田幸俊 Vice Chair からの開会挨拶の後、多田邦雄 LMAG Chair (東京大学名誉教授) が、半世紀前、1960 年ごろに始まった日本における半導体集積回路の研究開発の黎明期における状況を生き生きと語られました。その中でバイポーラ論理回路の集積化の流れ、特にショットキー クランプトランジスタ発明からショットキー-TTL 隆盛に至る経緯などが述べられました。現在の複雑でブラックボックス化された ULSI からは想像できない IC の基礎に関する先駆者たちの試行錯誤が紹介され、当時の大学と企業が立場を超えて協力していた様子も語られました。

聴衆の若手からの質問に答えて、課題が十分には解決されたとは思わずに、ねばって疑問を持ち続けて悩んでいた時期に、パツとひらめきを与えられたという経験や、隣接分野あるいは類似分野を少し勉強してみると良いヒントが見つかることも多いといった話も、紹介されました。

続いて持田侑宏 LMAG Vice-Chair (バイエルン州駐日代表部顧問) から、半導体の進歩とともに発展した通信システムの研究開発に従事する中で、ドイツ、中国、フランスなどの研究者との交流で学んだ経験や、国際連携の楽しさと大切さが語られました。

次に百瀬寿代氏 (東芝半導体研究開発センター) からは、多田 Chair が話題とした上記の時代から約 30 年を経たシリコン LSI の時代における微細 MOS トランジスタの研究で、当時世界最高の DC・RF 性能を実証し、その功績が日本女性初の IEEE Fellow につながったことが語られました。現在よりも優れた半導体を実現するために、どんな実験をすれば何が解るのか考えることが好きで、興味を持ち続けているという経験談が、参加した若手の人々の関心を集めました。

質疑応答の中で、百瀬氏は学生時代に化学を専攻し企業に入って専門を広げてきたこと、多田 Chair からは、研究に取り組む楽しさと好きなことをできる環境とが相まてば、一番大きな飛躍が可能であり、その意味で若い時代は非常に重

要とのコメントがありました。WIE 会員から、女性として研究者という仕事をどう思うかと問われて、仕事は結果で評価されるので普段は性別をあまり意識していないことと、男性と同じにできないことも不利と考えずにあせらないことが大事と語られました。1 年間の育児休職後の経験として、ブランクを感じたが新鮮な気持ちで対象に向かえたことが良かったのか、大きな成果となる印象深い研究ができたことが紹介されました。

世代間の議論は、懇親会の中でさらに活発に続いてゆきました。



交流会の様。左から多田、持田、百瀬の 3 講師



懇親会後の記念撮影

4. IEEE Milestone 認定記念講演会案内

主催: IEEE 東京支部 共催: LMAG Tokyo 他
日時: 5 月 22 日 (木) 12 時 15 分 - 13 時 30 分
会場: パレスホテル東京 2 階「橘」
総括題目: NTT 音声符号化の基本技術 LSP
講演者: 白川功、守谷健弘、板倉文忠の 3 氏。

なお、詳しくは 5 月 1、2 日に各々メール配信された東京支部および LMAG Tokyo の講演会案内をご覧ください。参加申し込みは 5 月 15 日までに tokyosec@ieee-jp.org 宛お願いします。

IEEE Tokyo Section Life Members Affinity Group
Newsletter 2014 年 5 月 8 日発行 第 12 号
発行: IEEE 東京支部 Life Members Affinity Group
〒105-0011 港区芝公園 3-5-8 機械振興会館 517 号
URL: <http://www.ieee-jp.org/section/tokyo/lmag/index.htm>
E-Mail: tokyosec@ieee-jp.org